

日本中小企業学会

2020年1月

## 会 報

No. 76

## 会長就任にあたり 日本中小企業学会 佐竹 隆幸 新会長挨拶



佐竹 隆幸 (関西学院大学) 新会長

### 「研究成果の地域社会への還元」

2019年11月1日付で、日本中小企業学会の第14代会長に就任しました。本学会は中小企業論の祖・山中篤太郎先生を中心に1980年に設立され本年で39年目となりました。中小企業研究に取り組む多様な専門分野の研究者が結集し、異質多元的といわれる中小企業の総合的・学術的・学際的研究を進展させ、その成果の普及を図るという本学会の目的は、これまでも、そして今後も変わることはありません。

日本の中小企業は、近年、事業承継が大きな課題となっています。社会経済構造の変革期にあり、中小企業をめぐる経営環境も大きく変わりつつあります。日本経済が発展するためには、中小企業の存立が必要不可欠ですが、多くの中小企業は経営者の高齢化と後継者不在という深刻な状況に陥っています。この問題にはできる限り早期に解決策を講じる必要があります。このまま放置すれば中小企業の持つ技術やノウハウ等が失われ、その後起こる日本経済への影響は計り知れ

ません。同時に、人口減少局面で過疎化が進行する地域社会においては喫緊の課題であります。地域の疲弊が深刻化するなかで、地域資源の活用や企業間、地域間、産学公間の連携等による活性化へのポテンシャルは少なからず存在していますが、その実効化については企業間や地域間で格差が生じています。

本学会としましては、これまでの研究の業績をもとに、さらなる発展と進化、研究成果の地域社会への還元として、事業承継等の中小企業の課題解決にこれまで以上に貢献していくことが私の目指すところです。中小企業研究も転機を迎えています。企業単体の存立から、社会全体でのあり方について意識した中小企業の経営を社会的基盤としての存立意義を改めて確立する必要があると考えます。

以上、これまでの伝統と成果を踏まえ、日本の中小企業研究の中核である本学会をいかに発展させ、次世代に繋げていくためには、若手研究者の発掘と育成が必要不可欠で、若手会員の増強を図ることが重要であります。その方向性と戦略を考え実現していくことが、新会長に与えられた責務であり、設立から間もなく40年を迎える本学会ですが、多くの会員・役員諸氏とさらなる発展に繋げていきたいと考えます。

岡室博之前会長は、会長就任のご挨拶で「社会・経済の仕組みの大きな転換期のなか、日本の中小企業の経済環境や中小企業研究が大きく変わりつつある。変化に遅れず、挑戦し、本学会を真に日本の中小企業研究を代表し、若手研究者を魅了し、世界に通用する学会にすること」と決意表明を述べられました。これらは、13期運営体制のもとで大きな成果をあげられましたが、14期においてはさらなる学会の発展を目指し「地域＝中小企業」であるといわれるかごとく、地域創生と中小企業存立を軸とした多くの課題に対し学会として会員増強も含め果敢に取り組むことを引続き私の使命としたいと考えております。今後の本学会運営につきましては、中長期的な視点から、会員や役員の皆様と共に課題の共有と活動内容を検討して参りたいと思いますので、なにとぞ、ご理解、ご協力の程よろしく願います。

## 日本中小企業学会 第 39 回全国大会

日本中小企業学会第 39 回全国大会が 2019 年 9 月 14 日 (土)、15 日 (日) の 2 日間にわたり、愛知学院大学にて開催された。

統一論題は「事業承継と中小企業～大廃業時代を生き抜く中小企業～」をテーマに報告・討論が行われた。また、今大会は自由論題で 8 つの分科会が設けられた。

今大会も信金中央金庫協賛による国際交流セッションが開催され、「ASEAN 諸国の中小企業政策：マレーシアを中心に」をテーマに 2 つの報告が行われた。

会員総会では、2018 年度事業報告・決算報告ならびに 2019 年度の間接決算報告が行われ、2020 年度事業計画と予算案が承認された。

## 日本中小企業学会 第 39 回全国大会記

日本中小企業学会第 39 回全国大会は、愛知学院大学・名城公園キャンパスで、2019 年 9 月 14 日 (土)、15 日 (日) の 2 日間にわたり開催された。

自由論題報告は 14 日午前に 4 分科会 12 報告、15 日午前に 4 分科会 8 報告が行われた。

統一論題に関連した事業承継に関する報告を始め、起業、企業連携、地場産業、情報関連企業、中小企業の経営と成長、公的施策など、広範囲にわたるテーマについての報告と討論が行われた。

14 日午後の国際交流セッションでは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所の協賛を得て、共通演題「ASEAN 諸国の中小企業政策：マレーシアを中心に」について、以下の三つの報告が行われた。

- ①「ASEAN 諸国の中小企業政策の比較と今後の展望」船橋學 (国際協力機構)
- ②「マレーシアの中小企業の現状と課題」Zariyawati Binti Mohd Ashhari (University Putra Malaysia)
- ③「マレーシアに進出する日本企業の現状と課題」関根成子 (日本貿易振興機構)

国際協力機構と日本貿易振興機構は、アジア研究者にとって基本情報のプラットフォームと言える機関であり、豊富なデータベースを使って、舟橋氏は ASEAN 主要国と日本企業との関係を整理し、関根氏はマレーシア経済の特徴と工業化政策、対外経済関係、日系企業との関係を明らかにされた。Zariyawati 氏は、マレーシア経済における中小企業の地位を明らかにしつつ、政府による支援政策、成功事例、将来展望などを示された。タイと並ぶ高位中所得国マレーシアでは、今後、工業部門の中小企業を育成し、人口 3,200 万人という、相対的に狭隘な市場規模の制約をいかに克服するかが問われているといえよう。

15 日の統一論題「事業承継と中小企業～大廃業時

代を生き抜く中小企業～」では、以下の三つの報告が行われた。

- ①「後継経営者の状況的学習と課題—中小製造業の事業承継と経営革新—」神谷宣泰 (名古屋市立大学研究員)
- ②「事業承継問題の陰に潜む“技能・ノウハウ”の承継問題—経営者のバトンタッチだけでは完結しない現場レベルの承継問題を考える—」鉢嶺実 (信金中央金庫)
- ③「老舗・長寿企業の事業承継—京都老舗企業にみるイノベーション—」辻田素子 (龍谷大学)、松岡憲司 (龍谷大学)

第 1 報告は、親族による承継事例の研究に基づいて、徒弟制研究から生まれた「正統的周辺参加論」によって、後継経営者の学習過程を承継前・中・後の 3 段階に分けて検討したものである。これに対し、親族内承継へのこだわりが承継問題を一層難しくしているのではないかとの指摘があり、今後、一般社員など親族外承継の事例研究が重要になるとの指摘があった。少子高齢化が進む中で、承継問題の将来展望を考えると、この指摘は極めて重要と思われる。

第 2 報告では、通常の実業承継に止まらず、現場レベルでの“技能・ノウハウ”の承継の重要性が指摘され、この点について、報告者の関係する信用金庫の支援事例の中からいくつかの成功事例が報告された。報告者は、問題解決のカギとして「暗黙知の形式知化」が必要であり、現場では IoT や AI によるノウハウのデジタル化が進んでいると指摘した。これに対し、「暗黙知の形式知化」の困難の指摘と併せて、経営の承継と“技能・ノウハウ”の承継の関係の究明、ノウハウのデジタル化の過程の詳しい説明が必要であるとのコメントがあった。

第3報告では、事業承継を通してみた京都老舗企業のイノベーションについて、創業者一族、とりわけ長男による比較的若い時期(30~40歳代)の承継が革新活動にプラスに機能しているという。これについては、老舗≒長寿ファミリービジネスという定義の再検討が求められると同時に、「京都らしさ」の源泉をどこに求めるかという問題提起があった。千余年の王都にして仏教の中心という京都の歴史的個性は、立地と伝統そのものが参入障壁として機能している可能性が強く、事業承継の態様そのものも参入障壁を補強している可能性が強い。

さて、今回の国際交流セッションに関係したアジア研究者として、日本の中小企業研究が、真の国際交流に資するためには、アジア諸国が抱く日本の中小企業

についての知的関心にも応える必要があり、そのためには、一層の研究成果の国際広報が必要であることを指摘しておきたい。

終わりに、今大会が好天に恵まれ、名古屋城を一望する最新のキャンパスで、174名の参加を得て盛会のうちに幕を閉じたことにつき、林伸彦プログラム委員長、関千里大会準備委員長はじめとする関係各位と、岡室博之会長のご尽力に感謝したい。

第40回全国大会は、佐竹隆幸会長の下で、2020年10月10・11両日、駒澤大学・駒澤キャンパスで開催される。

足立文彦(金城学院大学)

## 地区部会・支部会別活動報告

### <東部部会>

#### 第1回

日時：2018年12月1日(土) 場所：立教大学池袋キャンパス 参加人数：29名

(1) 河藤佳彦(専修大学)

「地域資源とソーシャル・キャピタルを活かした産業クラスター形成方策の考察—飯田航空宇宙プロジェクトを事例として—」

(2) 大田康博(徳山大学)

「展示会の空間的条件が参加者の相互作用に与える影響：繊維産業の事例」

#### 第2回

日時：2019年6月22日(土) 場所：専修大学神田キャンパス 参加人数：15名

(1) 中川翔太(明治大学大学院生)

「協同組合を活用した中小企業の技能承継の円滑化に関する研究」

(2) 山本聡(東洋大学)

「中小ファミリービジネスにおける境界連結者の役割と起業プロセス」

(3) 鉢嶺実(信金中央金庫 地域・中小企業研究所)

「中小企業における技能・ノウハウの承継について」

#### 第3回

日時：2019年7月13日(土) 場所：東洋大学白山キャンパス 参加人数：20名

(1) 津島晃一(事業承継Lab.)

「心理的オーナーシップ論による非親族承継の分類：個人保証に着目した3類型」

(2) 池谷圭右(東洋大学大学院生)

「中小企業経営者の意思決定プロセスに関する実証研究—外部専門家の関与を中心として—」

(3) 川村悟(関西外国語大学)

「統計史料から導く中小企業診断士の課題」

(4) 中村吉明(専修大学)

「「川崎モデル」とその波及による中小企業振興のためのエコシステムの創成」

### <東部部会北海道支部>

#### 第1回

日時：2019年9月12日(木) 場所：小樽商科大学札幌サテライト 参加人数：11名

(1) 河田真清(札幌学院大学)

「地域資源を最大限活用して成長を続ける企業」

(2) 中村宙正(尚美学園大学非常勤講師)

「公務細分化委託と中小企業」

### <中部部会>

#### 第1回

日時：2019年6月8日(土) 場所：愛知学院大学名城公園キャンパス 参加人数：26名

(1) 神谷宜泰(名古屋市立大学大学院経済学研究科研究員)

「後継経営者の状況的学習と課題—中小製造業の事業承継と経営革新—」

(2) 澤田誠 (愛知淑徳大学大学院生)

「地場産業における経営資源の統合と展開についての考察—インターナル・マーケティング視点による事例分析—」

(3) 今永典秀 (名古屋産業大学)

「伝統産業の事業承継者による新規事業の考察—岐阜県関市の刃物産業におけるクラウドファンディングを活用した事例—」

第2回

日時：2019年6月29日(土) 場所：名城大学天白キャンパス 参加人数：19名

(1) 川崎綾子 (名古屋大学)

「境界のマネジメント—中小企業と大企業間の境界連結者による信頼の構築と維持—」

(2) 玉井由樹 (福山市立大学)

「種類別にみたクラウドファンディングへの資金提供動機と今後の課題—アンケート結果の分析を中心に—」

(3) 大前智文 (岐阜協立大学)

「岐阜県でがんばる中小企業の実態に関する予備的考察—2018年度岐阜県中小企業家同友会政策委員会アンケート調査から—」

<西部部会>

第1回

日時：2019年2月2日(土) 場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス 参加人数：35名

(1) 辻田素子 (龍谷大学)・松岡憲司 (龍谷大学)

「京都老舗企業のイノベーションと類型化」

(2) 服部繁一 ((公財)大阪市都市型産業振興センター)

「起業家の活動について—大阪市の創業支援施設利用者の聞き取り調査より—」

(3) 瓶内栄作 (兵庫県立大学大学院生)

「2010年代の中小企業政策にみる中小企業像の認識の変遷」

第2回

日時：2019年5月11日(土) 場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 参加人数：37名

(1) 児山俊行 (大阪成蹊大学)

「イタリア産地企業を観る意義について：日本産業集積地の中小製造業の発展方向に関連して」

(2) 三浦佳子 (兵庫県立大学大学院生)

「タイの中小企業振興法の成立に関する考察」

(3) 小寺倫明 (兵庫県立大学)

「中小企業の人材確保と働き方改革に関する考察」

第3回

日時：2019年7月6日(土) 場所：神戸山手大学3号館 参加人数：32名

【第一会場】

(1) 山下紗矢佳 (神戸山手大学)

「小規模事業者の連携に関する一考察」

(2) 中村嘉雄 (兵庫県商工会連合会)

「地方における中小企業の事業承継の方向性」

【第二会場】

(1) 梅村仁 (大阪経済大学)

「地方におけるIT 中小企業の集積要因と働き方改革」

(2) 竹下智 (大阪経済大学大学院生)

「中小ソフトウェア業における存立条件の検討」

(3) 亀井克之 (関西大学)

「中小企業経営者の健康に事業承継が及ぼす影響—日仏比較研究—」

<九州部会>

第1回

日時：2019年7月27日(土) 場所：福岡大学2号館222教室 参加人数：10名

(1) 于曉爽 (福岡大学)

「中国における人的資源管理に関する一考察」

(2) 黄完晟 (九州産業大学)

「低成長期における日本の中小企業の成長指向性—製造業を中心に—」

(3) 川上義明 (福岡大学)

「中小企業における内外経営環境の変化と新しい事業の展開」

## 日本中小企業学会 2019年度決算報告(2018年11月1日～2019年10月31日)

《収入の部》	2019年度予算 (a)	2019年度決算 10月31日	差額
I 前期繰越金	6,832,894	7,501,893	668,999
II 会費収入計	3,820,000	3,876,784	56,784
(1)個人会員会費収入	3,220,000 (490口)	3,216,784 (487口)(b)	-3,216
(2)賛助会員会費収入	600,000 (30口)	660,000 (33口)	60,000
III その他収入	300,000	325,139	25,139
(1)協賛金収入	300,000	300,000	0
(2)雑収入(c)	0	25,139	25,139
合計	10,952,894	11,703,816	750,922
期間収入総額	4,120,000	4,201,923	81,923
《支出の部》			
I 全国大会開催経費	800,000	800,000	0
II 地区部会経費	300,000	300,000	0
(1)東部部会費	155,000	155,000	0
(2)中部部会費	39,700	39,700	0
(3)西部部会費	91,500	91,500	0
(4)九州部会費	13,800	13,800	0
III 会報発行経費	300,000	148,392	151,608
IV 年報編集費	150,000	150,000	0
(1)レフェリー謝金	70,000	70,000	0
(2)郵送費	60,000	60,000	0
(3)役務費/事務費	20,000	20,000	0
V プログラム委員会経費	50,000	0	50,000
VI 国際交流経費(学会報告補助)	200,000	200,000	0
VII 若手研究奨励経費	130,000	52,742	77,258
VIII 本部経費	3,340,000	2,358,076	981,924
(1)郵送費	30,000	12,316	17,684
(2)旅費	100,000	0	100,000
(3)事務担当謝金	200,000	18,000	182,000
(4)年報発行費・事務費	1,500,000	1,098,846	401,154
(5)国際交流費	550,000	530,000	20,000
(6)事務用品費	200,000	70,248	129,752
(7)役員選出費	200,000	182,304	17,696
(8)名簿発行費	0	0	0
(9)ウェブ管理費	500,000	409,914	90,086
(10)雑費(d)	60,000	36,448	23,552
IX 予備費(e)	50,000	39,960	10,040
X 次期繰越金	5,632,894	7,654,646	2,021,752
合計	10,952,894	11,703,816	750,922
期間支出総額	5,140,000	4,049,170	1,090,830

(a)2019年度予算は2018年度会員総会の資料によるものである。

(b)個人会員は487口のうち、シニア・院生が64口であった。端数が出ているのは、1会員が、手数料を抜いた金額で納入しているため。

(c)会員外の入金と過年残余金、余剰会費納入、銀行利息による。

(d)雑費は、銀行振込手数料、郵便振込手数料、印字代による。

(e)全国大会時の役員会弁当代による。

## 2019 年度決算概況

2019 年度（2018 年 11 月 1 日～2019 年 10 月 31 日）の収支決算は、152,753 円の黒字であった。なお、具体的内容は以下の通りである。（前年度 2018 年度は 99,937 円の黒字）

### 《収入の部》

2019 年度の収入総額は 4,201,923 円であり、うち会費収入は 3,876,784 円であった。会費収入の内訳は、個人会員 3,216,784 円（487 口）、賛助会員 660,000 円（33 口）である。個人会員 487 口のうち、シニア・学生会員は 64 口であった。なお、個人会員の年会費は 7,000 円、学生会員とシニア会員の年会費は 4,000 円となっている。今年度決算時、個人会員会費収入は予算に対し 3 口減となりわずかに下回ったが、賛助会員が 3 口増となり 60,000 円予算を上回ったため、会費収入合計では予算に比べ 56,784 円となった。その他雑収入（過去分会費収入等）25,139 円も含めて予算比 81,923 円 収入増となった。

対前年では、収入総額 161,905 円増加、会費収入 136,784 円の増加となった。

### 《支出の部》

2019 年度の支出総額は、4,049,170 円であり、予算を 1,090,830 円下回った。本部費関連で大幅に費用減となり 981,924 円減となったが、その内訳として 年報発行費・事務費や、事務用品費、事務担当謝金などの削減が予算比で減少した主因である。そのほか、会報発行経費が 151,608 円予算を下回った。

対前年では、支出総額 109,089 円の増加となった。

### 《繰越金・資産内訳》

2018 年度としての収支は 予算では 1,020,000 円の期間マイナスで、繰越金が減少する計画であったが、決算では 152,753 円のプラスとなり 2020 年度への繰越金は増加して、2019 年 10 月 31 日現在の残高証明額と同様、繰越金残高は 7,654,646 円となった。なお、資産（預貯金等）の内訳は、下記の通りである。

現 金	三井住友銀行 普通口座	ゆうちょ普通口座	ゆうちょ振替口座	合計
199,088 円	138,124 円	315,796,円	7,001,638 円	7,654,646 円

## 若手研究奨励賞

2019 年度の「日本中小企業学会若手研究奨励賞」には、水村陽一会員の「開業促進政策と開業障壁—ドイツ手工業秩序法の大改正に関する実証分析—」が授与された。

## 国際学会報告助成

「国際学会で中小企業に関する研究報告を行う本学会員に対する経費助成」には、2018 年度追加募集分で原泰史会員と大田康博会員の 2 名、2019 年度募集分で高野佳佑会員の 1 名、計 3 名の助成を行った。

### 2018 年度（追加募集）助成

- ・原泰史会員（在パリ、社会科学高等研究院 日仏高等研究センター ミシュランフェロー）  
研究論文タイトル Brighten the corners: Quantitative analysis of science - technology - design linkage in product innovation
- ・大田康博会員（徳山大学）  
研究論文タイトル Entrepreneurship in natural craft dyeing: A case of Japanese studio, Takarajima, Senko

### 2019 年度助成

- ・高野佳佑会員（筑波大学大学院生）  
研究論文タイトル “How does natural disaster experience impact spatial structure of supply chain network? Evidence from the Great East Japan Earthquake and expected Nankai Trough Earthquake”

## 日本中小企業学会・第14期 各役員（2019年11月～2022年10月）

- 会 長 佐竹隆幸
- 副 会 長（東部）堀 潔、（中部）渡辺俊三（西部）池田 潔、（九州）黄 完晟
- 常 任 理 事（東部）岡田浩一、岡室博之、高橋美樹  
（中部）林 伸彦、弘中史子  
（西部）太田一樹（編集委員長）、高田亮爾、文能照之（国際交流担当）、本多哲夫  
（若手対策担当）  
（九州）出家健治
- 理 事（東部）鹿住倫世、駒形哲哉、遠山恭司、長山宗広、安田武彦、山本篤民、山本 聡  
（中部）大前智文、寺岡 寛、山田基成  
（西部）関 智宏、西岡 正（会員拡大担当）、藤川 健（編集担当(2020年度)・広  
報担当）、前田啓一  
（九州）大田康博
- 幹 事（東部）許 伸江、鈴木正明、高橋德行、Kan Viktoriya、吉田健太郎、今野喜文（北  
海道支部担当）  
（中部）浅井敬一郎、宇山 翠  
（西部）梅村 仁（編集担当(2021年・22年度)）、大熊省三、糸野博行、長谷川英伸  
（編集事務担当）、山下紗矢佳（事務局長）  
（九州）遠藤真紀、飛田 努
- 監 事（東部）八幡一秀、（西部）太田進一
- 地区部会担当（東部）許 伸江（跡見学園女子大学）、鈴木正明（日本大学）、Kan Viktoriya  
（帝京大学）、吉田健太郎（駒澤大学）  
（中部）大前智文（岐阜協立大学）  
（西部）山下紗矢佳（武庫川女子大学）  
（九州）笹川洋平（福岡大学）
- 本 部 事 務 局 山下紗矢佳（事務局長）、小川雅弘、瓶内栄作、桑山政明、小寺倫明、佐野理恵、  
津田泰行
- .....

## 本部事務局からのお知らせとお願い

日本中小企業学会役員改選に伴い、本部事務局連絡先が東洋大学経営学部（山本聡事務局長）から変更になりました。武庫川女子大学経営学部（山下紗矢佳事務局長）になります。新役員は上記の通りです。なお、新事務局の連絡先につきましては会報の末尾をご確認ください。

また、今年度（2019年11月1日から2020年10月31日）会費のご納入をお願い申し上げます。一般会員は7,000円、学生会員・シニア会員は4,000円となります。事務局の変更に伴い、会費の振込先口座が変更されましたので、お間違いのないようお願い申し上げます。会費3年分未納者は自然退会となりますのでご注意ください。

次回の日本中小企業学会第40回全国大会は、2020年10月10日（土）・11日（日）に駒澤大学で開催されます。

## 2019年度 新規加入会員

## ■個人会員 20名

部会	氏名	所属機関	紹介会員	
東部	相原君俊	法政大学大学院生	井上善海	山本 聡
東部	片上 洋	新潟経営大学	林 伸彦	西田安慶
東部	庄司義弘	新潟大学大学院生	吉原元子	奥山雅之
東部	田中克昌	日本経済大学	井上善海	久保田典男
東部	永井健一	フィルモールド・ラボラトリー(株)	岡室博之	山本 聡
東部	張 文婷	新潟大学	岡室博之	山本 聡
東部	早川和幸	法政大学大学院生	井上善海	山本 聡
東部	宮本健吾		岡室博之	山本 聡
中部	相原延英	名古屋文理大学	福田 敦	八幡一秀
中部	西田郁子	名古屋市立大学	林 伸彦	西田安慶
西部	李 良姫	兵庫大学	池田 潔	前田啓一
西部	桑山政明	MK&C ビジネスソリューション	佐竹隆幸	山下紗矢佳
西部	左川睦子	Management Lab SAGAWA	佐竹隆幸	山下紗矢佳
西部	須和憲和	(株)ウエスト神姫	佐竹隆幸	山下紗矢佳
西部	種市 豊	山口大学	林 伸彦	西田安慶
西部	玉井由樹	福山市立大学	西澤昭夫	大前智文
西部	辻村謙一	(株)グランス	佐竹隆幸	山下紗矢佳
西部	西本 凌	関西学院大学	佐竹隆幸	山下紗矢佳
西部	細海真二	京セラドキュメントソリューションズ(株)	佐竹隆幸	山下紗矢佳
西部	岡室俊之	I T経営相談所	岡室博之	山本 聡

## 日本中小企業学会・本部事務局

## 【事務局連絡先】

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46

武庫川女子大学 経営学部

山下紗矢佳研究室内 E-mail info@mail.jasbs.jp

郵便振替口座 ≪口座記号番号≫00900-5-334434 ≪加入者名≫日本中小企業学会